

ふじのくに県政レポート

2018年 特別号

阿部卓也 政策実現の10年

静岡県議会議員としての10年間約3650日は、毎日が県政向上のための情熱のかたまりであった気がします。手がけた仕事の数々はとても書ききれませんが、主だった提案と、実現させた施策を列記させていただきます。

会長ごあいさつ

私たちは、静岡県議会第2会派(21名)、政策集団「ふじのくに県民クラブ」です。日頃より静岡県政に県民のみなさまの声を伝え、現場感覚あふれる政策づくり、未来志向の政策づくりに日夜努力を重ねています。

桜町宏毅、阿部卓也の3期生の両名は、この度全国議会議長より勤続10年表彰を戴きました。両名は今や会派の屋台骨を支える中心メンバーで本当に大活躍をしてくれています。今年度は会長を務めておりますが私が7期、三ツ谷金秋幹事長は6期というベテランであり、曳田卓総務会長、鈴木智政副会長は2期とまだ若いので、新執行部編成にあたり、特別に役員ポストを増やし副幹事長として阿部卓也議員に通算4期目となる役員を務めてもらっていますが、その能力をオールマイティに発揮していただいております。今や会派のキーストン(要石)としてなくてはならない存在です。

阿部議員が長くリードしてくれた会派政務調査会での政策立案、そして個人としての政策立案も実に独創的かつ幅広く奥行きのあるものですし、地元だけに限らず全県をフィールドにした活動実績の数々を、10年表彰特集号としてまとめさせていただきましたので、10年間の成果の数々をご覧いただき、今後とも「ふじのくに県民クラブ」ならびに阿部卓也議員にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ふじのくに県民クラブ 会長 岡本 護



「ふじのくに食の仕事人」制度を提案・実現

静岡県産の食材と料理人をよりPRするため「食の仕事人」制度を提案(平成22年)現在は300人余の「仕事人」が指定され、県内外、そして海外まで静岡県の食材の魅力とおいしい料理をPRしています。

「こども芸術大学」の提案・実現

県内のこどもたちに、さまざまな芸術に触れてもらい感性を育てていくために、県内各地で体験型の「こども芸術大学」の創設を提案(平成22年)し、実現しました。芸術鑑賞や創作体験にとどまらず、遠州大念仏の体験講座など地域の伝統文化も守る動きにつながるなど、今やすっかり定着しています。

「健康福祉政策の充実」

健康長寿県である静岡県の健康寿命(介護を受けたり寝たきりになったりせず元気に活動できる平均年齢)をさらに延伸させるために、さまざまな政策提言をしてきました。運動することによってマイルをためると公営施設や協賛企業から優遇措置や特典がもらえる「健康マイル」制度の提言・導入(平成27年)、定年退職者の雇用拡大施策の提案、がん治療の研究促進やがんの早期発見のための検診の充実などを定めた「がん基本条例」の制定(平成23年)や「障害者差別解消条例」の制定(平成28年)、などさまざまなカタチでの健康福祉政策の充実にも取り組んできました。今後も少子高齢化社会となる日本において、だれもが暮らしやすい「日本の理想郷ふじのくに」づくりに邁進してまいります。

森林公園の整備促進

県民のみなさまの憩いの場である森林公園の老朽化施設の更新、トイレの洋式化、森の家・バービシアのリニューアル、各種イベントや自然観察セミナーなどの充実、イノシシ避難施設の整備など、より多くのみなさまが使いやすい魅力にあふれる公園づくりに努めてまいりました。結果として、10年前の平成19年度予算936万円→平成29年度予算1億4,400万円と、大幅に予算も増やすことができました。地元の仕事もしっかりやっています!!



馬込川・灰木川の災害対策整備等に尽力



近年の天候変動により、台風の直撃や集中豪雨の襲来が相次ぐようになりましたので、県内河川に先駆けて「馬込川再整備計画」の立案に着手しています。2017年夏の豪雨後は新原下善自治会の要望に即応し堤防を一部緊急かさ上げしました。また、馬込川の堤防の草刈りも県と自治会の協議の場を設置し、役割分担を実現しともに馬込川を守ってゆく気運を創りました。また、

長年の懸案であった使用頻度の高い堤防道路部分の簡易舗装を実現し、小松・雷神橋の架け替えも、浜松市と協議を重ね当初の予定を早めて着手する道筋をつけました。現在浜松市と地元の協議が始まっています。



灰木川については流域の地質的に土砂の堆砂しやすい河川ですので、浚渫回数を増やし災害防止に努めています。

海の道・県道223(ふじさん)号を提案・実現

清水港～西伊豆を結ぶ駿河湾フェリー。伊豆西海岸のみなさまにとっては命の道でもあるこの航路ですが、赤字にあえぎ廃止もさざやかれていました。そこで一計を案じてこの航路を、富士山の世界遺産実現に向けて観光路線と位置付けようと考え、「海の道・県道223号」として指定するという提案(平成24年)をし、不可能視されたものを自ら国土交通省に乗り込んで了承をとりつけ、実現させました。



いまやご存知のとおり世界に知られる観光ルートとなっています。

「物流戦略ビジョン」の策定を提言・実現

新東名の開通を見越して、物流産業を静岡県の基幹産業に位置付けるよう提案(平成19年)。その提案を受けて翌年石川前知事により県庁組織に「物流班」が設置され、その後の「静岡県物流戦略ビジョン」の策定(平成23年)を実現させ、今日の「静岡県の基幹産業のひとつとしての物流業」のポジションを確立させつつあります。

「浜松・遠州灘防潮堤建設」への関与

一条工務店さんの巨額の寄付のお申し出から、県と浜松市と浜松経済界のタッグでスタートした浜松防潮堤工事。現在も順調に工事が進んでいます。建設スタート時から、この工事は「地元のお金(税金や寄付)が地元で還流することが大切だ」と「静岡県版ニューディール政策」であるべきと提唱し、地元建設業界、造園業会などの優先参画制度づくりに奔走し実現し今日に至っています。一日も早い全区の完成が待たれます。



「地域外交」へのさまざまな提言と結実

川勝知事が提唱した静岡県が全国の最先進県である「地域外交」。私もこの未来志向の地域外交の考えには積極的に提言・関与・参画をして、着実に成果が結実しつつあります。静岡県議会屈指の国際派としてワールドワイドに活動しています。



「ドイツ・フラウンホーファー研究所」…近年のドイツ産業の躍進「インターストリー-4.0」を支えている「フラウンホーファー研究所」を訪問(平成27年)し、アジア担当部長と直談判し、県職員の派遣の理解を取り付け、その派遣により県内企業とドイツ企業の業務を橋渡し、航空宇宙産業、光技術産業など各級レベルでの交流が活発化しています。

「アメリカ・スタンフォード大学医学部」…アメリカの雑誌で偶然、浜松出身の主任研究員を発見し飛び込みでアタックし、快諾を得て協議を重ね(平成28年～)、静岡県とのさまざまな新産業のミライづくりに大きく寄与しています。

「中国・国際経済交流センター」…知己を得て中国政府の直系シンクタンクである「中国国際経済交流センター」を訪問(平成28年)、魏建国副理事長と会談。また「華僑協会」常任副会長とも会談。これらの動きを経て平成28年11月には、日本ポータルで「各国の政財界の大家が意見交換をする国際会議「日中韓三賢人会議」(日経新聞社主催)も開催されました。難しい対中関係も、さまざまなパイプを構築しておくことで、さまざまな可能性を広げてゆきます。



「さまざまな産業政策」の提案・実現

「産業政策」は、私にとっては「教育」「外交」と並ぶ得意分野でもあり、県政においても重要な課題でもあります。産業といっても幅広く「農林水産業」「建設業」「観光業」なども含んで取り組んでいます。特に静岡県のものづくりを支える「中小・零細企業対策」には力をいれています。議員提案で制定した「中小企業・小規模企業振興基本条例」(平成28年)に基づく各種施策が投入され始めましたし、県内各地に「医療健康産業研究開発センター(長泉町)、先端農業の研究施設「AOIセンター」(沼津市)、「電波暗室」(浜松市)、「フォトンバレー研究開発センター」(浜松市)などなど産業研究拠点を整備も着々進めています。また、新規就農者のための「農機具バンク」の設置提言(平成28年)など、現場目線の産業政策も忘れていません。

「ICT(情報通信技術)関連」の提言・実現

ロボット技術やIoT(モノのインターネット)とも言われ、さまざまな「モノ」がインターネットでつながり、情報交換し互いに制御するシステムのこと。)やAI(人工知能)などなどに代表されるICTの進展が著しい近年です。そこで県もその最新技術や情報をキチンと取り入れ活用してゆくための体制を作ることが急務です。そこで、県のICT部門の充実のために「CIO(情報統括責任者)補佐官の導入」提言(平成25年)を皮切りに、逐次体制強化への提言を繰り返しています。その結果「高度情報化基本計画(ICT戦略2018)」の策定など、静岡県のICT対応に大きく貢献しています。

《幹事長日記》

【天竜浜名湖鉄道利活用促進議員連盟 幹事長】

その名の通り、天竜浜名湖鉄道の利活用促進を図るための議員連盟です。「県の支援体制の強化」「利便性向上のための増便」に始まり、「遠鉄との協力連携関係の強化」「全線の歴史的建造物を国の文化財指定を受ける」「社員教育体制の強化」「各種コストの効率化」「台湾鉄道局・集集線との相互送客などの友好提携」「肥薩オレンジ鉄道との友好提携」そして「大河ドラマおんな城主直虎誘致支援」など、さまざまなチャレンジのおかげで、現在天浜線は10年前3億円あった借金を完済して、黒字化に成功しています(※補助金は含む)



【私学振興議員連盟 幹事長】

私学(幼稚園、中学、高校、専門学校の3団体)振興を通して、静岡県全体の教育の質の向上を目指すための議連です。県内の地域ニーズに応じて私学への支援拡大大しにつつ、公立との役割分担や相乗効果での質の向上を図るための取り組みをしており、静岡県の教育の多様性と閉塞感の打破という意味において、たいぶ成果をあげていると感じています。さまざまな国内外の先進事例の提言なども繰り返してあり、教育の国際化、スポーツや芸術などの専門化、実学の充実などにも寄与しています。幹事長として、逆に私学一辺倒になって全体の底上げにつながらないという懸念にならないよう、静岡県の公私の教育振興のために大局的な見地からの切り盛りを心がけています。

【日本・モンゴル友好議員連盟 幹事長】

モンゴルは世界に冠たる地下資源大国ですが、内陸国のため輸送がままならず、いまだ発展途上にある国です。この議連は平成23年の創設以来、「日本のモンゴル外交の1割は静岡県が担う」と在モンゴル日本大使に言わしめるほど分厚い地域外交を展開しています。まだまだ大きなビジネスとしての成果はでていませんが、静岡県で研修をしたモンゴルを代表する人材が国や地方政府の中心となる日は近いと見えています。例えば、かつて日ソ連や中国の下で整備されたインフラが老朽化し再整備が始まっていますが、これらの事業が日本式・静岡県式で計画されています。こうなれば県内企業の進出のチャンスも広がるはず。すでに、7回のモンゴル訪問。未来のために強力な人脈を培っています。

【全国青年都道府県議会議員の会・シニアクラブ 幹事長】

40代以下で当選した都道府県議で構成する全国組織ですが、私も50歳となりこの組織では早くもシニアクラブメンバーです(笑)。そのシニアクラブ組織の幹事長も仰せつかついてます。全国150名余の登録メンバーと連絡を取り合い、お互いの地方政治のありかたについて意見交換したり、先進事例を学びあったり、研修会や視察を行うなど大変有意義な活動ができています。こちらも静岡県政のために大いに役立つ活動だと感じていますので、今後も積極的に地方政治の活性化・高度化のために、しっかりと幹事長としてキーストンとなって頑張ってまいります。



「学童保育ガイドライン」の策定を提言・実現

今や県内各地で整備が進む学童保育。この「学童保育整備のありかたガイドライン」の策定を提言(平成21年)。全国で6番目の策定を実現させ、今日県内市町の学童保育の定着促進に大きく寄与しました。



「多様な防災施策」の提言と実現

「耐震シェルター」導入補助制度の提言実現(平成20年)から始まり、「DIG」「HAG」(防災啓発ゲーム)の普及啓発、議員提案による「消防団応援条例」の制定に奔走し実現(平成23年)、建設業協会を災害基本法による「指定地方公共機関」へ指定し「県防災会議」への参画を提言実現(平成25年)、県内各地の防災に関する先進自治会や企業などを紹介する制度の創設～小松尾島、小松八幡自治会などを紹介し、県防災センターの実用的なリニューアル提言(平成28年)、さらには耐震工事を後押しするTOUKAIゼロ制度の拡充(平成29年)、消防団へのモトクロスバイクやドローンの配備(平成29年)などなど、現場感覚にあふれた防災のありかたを提言し、防災先進県静岡県の体制再構築に努力を続けています。

「警察との協働による安全安心の強化」



平成24年度には静岡県議会文教・警察委員長を務め、浜北署管内の交番再編事業を推し進め北浜交番の新設(平成27年)や、人口急増地域である染地台を中心とした信号整備や横断歩道整備などを積極的に展開することで、地域のみなさまの安心安全を確保してきました。今後も、交通量や交流人口の増加が見込まれる浜北区の安全対策の充実にはさまざまな手段や知恵を投入して精力的に取り組んでまいりたいと思っています。